

第 22 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和 8 年 7 月 22 日（水）

午後 6 時～ 7 時 30 分

会場：伊那市庁舎 5 階 501・502 会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 新規構成員自己紹介

4 会議事項

（１）第 21 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ 【資料 1】

（２）上伊那総合技術新校施設整備について 【資料 2】

（３）意見交換

5 その他

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

高校再編推進室

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関する事
- （2）校地・施設・設備等に関する事
- （3）管理運営等に関する事
- （4）教育内容等に関する事
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第22回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	座長○ 新規※		所属等	役職等
1	自治体		宮澤 和徳	辰野町教育委員会	教育長
2			小林 久通	箕輪町教育委員会	教育長
3			田中 俊彦	南箕輪村	副村長
4			尾形 浩	南箕輪村教育委員会	教育長
5			福與 雅寿	伊那市教育委員会	教育長
6			小平 操	駒ヶ根市	副市長
7		◎	加藤 孝志	宮田村教育委員会	教育長
8			片桐 健	飯島町教育委員会	教育長
9			片桐 俊男	中川村教育委員会	教育長
10		※	唐澤 利幸	上伊那広域連合	事務局長
11	地域	※	水上 俊治	上伊那地域振興局	局長
12	産業界		山寺 正子	辰野町商工会	代表
13			漆戸 豊徳	箕輪町商工会	代表
14			堀井 一政	南箕輪村商工会	副会長
15			山下 政隆	駒ヶ根商工会議所	副会頭
16			田畑 和輝（代理 唐澤 淳）	伊那商工会議所	副会頭
17	同窓会		林 龍太郎	辰野高等学校同窓会	会長
18			小河 節郎	箕輪進修高等学校同窓会	会長
19			宮原 達明	上伊那農業高等学校同窓会	会長
20			湯澤 英喜	駒ヶ根工業高等学校同窓会	会長
21	P T A	※	赤羽理恵子	辰野高等学校 P T A	副会長
22		※	北原 美枝	箕輪進修高等学校 P T A	副会長
23		※	北原 教正	上伊那農業高等学校 P T A	会長
24		※	西山 綾乃	駒ヶ根工業高等学校 P T A	副会長
25	学校関係者	※	牛山 博行	上伊那中学校長会（中川中学校長）	副会長
26		※	有賀 大	上伊那小学校長会（伊那西小学校長）	副会長
27			小池 景子	伊那支援学校	校長
28	学識経験者		松島 憲一	国立大学法人信州大学農学部	教授
29			工藤 賢一	南信工科短期大学校	副校長
30	統合対象校 関係者		清水 敏	辰野高等学校	校長
31		※	谷口 光治	箕輪進修高等学校	校長
32			小池真理子	上伊那農業高等学校	校長
33			功刀 裕	駒ヶ根工業高等学校	校長
34			有賀 紗菜	辰野高等学校	生徒代表
35		※	小池 天	箕輪進修高等学校	生徒代表
36		※	市村 鳳牙	上伊那農業高等学校	生徒代表
37			原田 和磨	駒ヶ根工業高等学校	生徒代表

【事務局】

学校名	氏名（役職等）
辰 野	*林 直樹（教頭）、宮澤 幸高、*小澤 潤也
箕 輪 進 修	*坂下 幸二（教頭）、井原 浩一郎
上 伊 那 農 業	*菊原 文典（教頭）、山下 昌秀、境 久雄、相沢 哲也、*田口 富大
駒 ケ 根 工 業	*上野 真一（教頭）、竹内 浩一、*和田 和代、伊藤 文春、*金森 力、*中嶋 章雄

		所属等	役職等
長野県教育委員会 事務局		*田中 聡	高校教育課 高校再編推進室
		望月 ゆかり	高校教育課 高校再編推進室
		*楯 和弘	高校教育課 高校再編推進室
		*東城 葵	高校教育課 高校再編推進室
		米澤 和真	高校教育課 高校再編推進室
		*清水 史明	学びの改革支援課
			指導主事

第 21 回 上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時・会場	令和 8 年（2026 年）1 月 27 日（火） 18 時 00 分～19 時 30 分 南箕輪村防災研修センター 森の学び舎
出欠席	懇話会構成員（敬称略）（◎座長） 出席者 30 名 小林 久通 田中 俊彦 尾形 浩 福與 雅寿 小平 操 ◎加藤 孝志 片桐 健 唐澤 直樹 池上 安雄 漆戸 豊徳 堀井 一政 田畑 和輝 小河 節郎 宮原 達明 湯澤 英喜 山崎 貴弘 松村あゆみ 北澤 繁樹 平澤和香枝 清水 慶一 小池 景子 松島 憲一 工藤 賢一 清水 敏 棚田 美穂 小池真理子 功刀 裕 有賀 紗菜 藤沢カウエ勇志 ザヒンラフマン マドルジョ 原田 和磨 欠席者 6 名 宮澤 和徳 片桐 俊男 山寺 正子 山下 政隆 林 龍太郎 池上 浩人
事務局	県教育委員会 5 名 原（多）主幹指導主事 原（周）主任指導主事 小池主査 望月主任指導主事 辰野高校 2 名 齋藤教頭 宮澤教諭 箕輪進修高校 2 名 岩田教頭 井原教諭 上伊那農業高校 3 名 塩原教頭 境教諭 相沢教諭 駒ヶ根工業高校 4 名 藤田教頭 竹内教諭 新井教諭 伊藤教諭
傍聴者	傍聴 8 名、報道 4 社
会議事項	（1）第 20 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ （2）今年度の経過と今後のスケジュール （3）設計者からの提案説明
当日資料	第 21 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会（資料 1～資料 3）
事前配布資料	第 21 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会（資料 1～資料 3）

主な内容（・意見及び発言等、○設計者回答、⇒県教委回答）

- 冒頭において新構成員から自己紹介
南箕輪村教育長、伊那商工会議所副会頭、駒ヶ根工業高等学校生徒代表、
役職交代のため今回から新たに参加
- 会議事項について
（1）第 20 回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ（資料 1）
事務局から説明し、意見及び質問はなし
第 19 回懇話会に出された意見（辰野高校の商業科だけ先に上伊那農業高校に合流できないか）について、4 校が一
斉統合することで変更ないと説明し、意見及び質問はなし。
- （2）今年度の経過と今後のスケジュール（資料 2）
・前任者から引き継いだ資料には地域のコンソーシアムをとあったが、産業界との連携はどうなっているのか。
⇒学校周辺にある各種学校や団体、この地域にある多くの企業の方々とも連携できるよう、一緒に検討していきたい。
・今後も懇話会が開かれ、施設整備基本計画をつくっていくということだが、細かい意見はどのように扱われるのか。
また出された意見を議決する流れはどのようになっているのか。教えていただきたい。
⇒今までは事務局として学校関係を中心に考えていたが、今後は、産業界や地域など、いろいろな方面から広く意見
を伺っていききたい。また、懇話会は議決機関ではない。しかし、皆さんから頂戴したご意見をできるだけ反映させ、
この懇話会を場を有意義なものにしたい。
・前任者も校地に関して意見を言ってきたが無視されてきた。発言しても仕方がないのか、他の方は賛成なのか。発
言しにくい。書かれた筋書き通りに進んでいる印象がある。
⇒施設整備基本計画の時点で地域の方々、学校の先生方、生徒の皆さん等の意見が取り入れられる。開校後に有効活
用されるような、そんな学校をつくっていききたい。
・今も話がいったように、実際に設計に入ると、本当にもうそのまま行くしかないという状況になってしまう。伊南
地域と呼ばれる 4 市町村には高校が赤穂高校 1 校になるという状況。その地域の人たちの意見が今まで反映されて
いたのかどうかということが非常に疑問。ホワイトカラー人材の方たちは AI に仕事を追われている。技術高校
は非常に大きな鍵になってくる。この地域が、非常に工業が盛んな地域であるということを念頭に置いていただい
て、子ども達がこの地域に残ってくれるような高校にしていっていただきたい。
⇒この地域、あるいは他の通学区からも通ってきてもらえるような、選ばれる、そんな総合技術新校にしていきたい
と思っているので、今後ともお力添えをお願いしたい。
・今素晴らしい意見をいただいた。昔 12 区に分かれていた通学区制は廃止され、各学校の生徒の取り合いが
始まっている。私学が実質無償化してくると、学校というものが選ばれる時代になる。建屋だけでなく学びに必要

な経費など、県では今後いろいろなところで統合が入ってくると、上伊那総合技術新校だけ特別な取り扱いはない、みたいな話の議論が出てくると思う。しかし、この地域は製造業、特にものづくりの企業が多くあり、それぞれの地域が働き手、または新しい技術者を求めているという流れがある中で、学校に対して協力したいという思いは非常に強い。県の教育予算だけでなく、この地域の特性を生かし、この地域からソフトウェアに対する援助ではなく、施設的な援助も含めた形で、この建物をつくるときに別の基金を立ち上げるとか、そういった形で潤沢な資金に基づいた形で選ばれる学校をつくっていく、という考えは。地域と連携し、地域から応援される技術新校、民間の援助を恒久的に受けられるような仕組みを考えていただくようなことが入れられるのであれば、チャレンジしていただけたらと思う。

- ・この懇話会の構成だが、農業もこの地域にとっては伝統的な産業であり、この地域を支えてきた産業。その代表はJAだと思うが、そういう農業の団体の代表が加わっていないということで非常に危機感を感じる。そういう農林関係の人も産業界の代表として加えてもらいたい。

⇒ご意見に感謝。

(3) 設計者からの提案説明(資料3)

説明後に質問及び回答

- ・本当に通いやすい学校になっているという印象を受けた。専門科が1つの学校に複数あるというのは少ないと思うので、その強みを生かした勉学以外の面で多く学ぶことができるだろう。
 - ・体育館に暖房はあるが、冷房はどうか。夏に災害が起きた時に暑くなることが想定される。暖房と冷房を一緒に入れることを検討してほしいと感じた。
 - まだ施設整備基本計画のたたき台の段階である。空調計画もしっかり設計させていただく。災害が起こった際にもそのようなことが想定されるのか、その意識を皆でそろえる必要がある。そのためのワークショップもやっていく。この学校に求められる災害対策は何か。地域は災害に対してどう対応するのか意識を共有化していきたい。
 - ・今通っている校舎と照らし合わせて、とてもワクワクしている。私は3年生で卒業してしまうが、卒業するのが惜しいと思うぐらいいいデザインだと思っている。3つの専門科が全部交流できるような設計になっていて、生徒のことを考えられていていいと思う。自分の中で理解しきれていないので「記憶を受け継ぐ配置」を説明してほしい。
 - 校地になるのが農業高校なので、土のにおい、土の雰囲気、周りに広がる風景、樹齢の長い木など、それらは壊してはいけないと思っている。まずはこの雰囲気を残したい。2つ目は、それぞれの学科が独立して配置されているが、それら専門科の学びも一つの記憶であり継承、発見であると思う。
 - ・いろいろな学年とさまざまな学科で交流できるのはいいと思うが、障がいのある方とかなどへの配慮、使いやすさなどに何か意見があれば教えて欲しい。
 - まだ基本計画ではあるが、バリアフリーを目指している。上伊那農業高校は傾斜地にあるが、正しいデータをもとに、しっかりとインクルーシブの観点で、垣根のないようにしたい。
 - ・大きなガラスのはめ込みがあり、とても開放感があるが、寒いだろう。部屋の暖かさ、寒暖の差についても考えなければ。軽井沢の風越学園を見た時、非常に素敵な建物だが、暖房費がすごいことになっていると聞いた。県外の人、暖房費が節約できて、しかも環境に優しい、というモデルになるものを目指してほしい。
 - 開放されていた方がいいという意見もあれば、窓は小さい方がいいだろうという人もいる。それぞれの良さをバランスをもって考えたい。熱損失、熱源などについても考えていきたい。
 - ・今、建物の話もあったが、3つの学科が一緒になるということで、専門性を追求するということ、共創的に学ぶということがあると思う。生徒と教職員の学ぶという視点でとらえた時の建物のあり方もきちっと考えていかなければいけないと思う。今、それぞれの学校での学びの進捗状況、今後どのように先生方の授業をやっていくのかという視点でのものの取り入れ方をお聞きしたい。
- ⇒本日の議題の中心は施設整備が中心。もちろん学びというものが根底にあり、その学びを実現するための施設整備というふうに考えている。専門性を追求しつつ三科が融合する。ただくっつけただけの学校ではなく、選ばれる学校になるよう今後も考えていく。まだはっきりしないこともあるが、今後も意見を交わしながら進めていきたい。
- ・今意見が出たように、箱ものだけ先へ進んでも、やはり学科とかそういうものが決まっていってこない、なかなか意見も言いにくいし、先ほどの防災の話になったように、論点がずれていってしまう。まずは科を決めること。また先日駒工で行われた課題研究発表会で生徒が言っていたのが、今のそれぞれの3科が持ち味を生かして協働することによって一つの研究ができた、と言っていた。また課題研究に対する時間が足りないと言っていた。いろいろな学科が入ったところで、もっと探究したいという気持ちがそがれるような科の編成は問題があるのではと思う。高校は長いようで短い。その中できちんとした学びを得て社会に出ていく、そういった学校にしていきたい。
 - ・まずは学びの方を進めていただいて、それに沿うような建物の計画を立てていただきたい。そういった順序で進めていただきたい。

◎座長まとめ

- ・事務局から今までの経過、これからのスケジュールについての説明があった。施設整備基本計画を作成する際のパートナーである設計チームの皆さんからの説明があった。本日新たなご意見、今後開催されるワークショップでの意見を参考にし、上伊那総合技術新校が地域の子どもにとって魅力的な学校になるよう、引き続き検討を進めていきたい。今日は大変たくさんのご質問ご意見をいただき感謝。

その他

- ・第22回懇話会については日程調整中

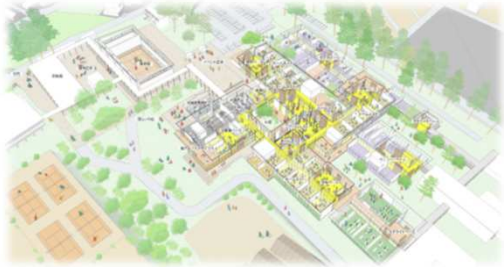
上伊那総合技術新校 これまでの経過

令和8年7月22日作成

- 第1回懇話会（R3.12月）
- 第15回懇話会（R6.1月）
校地決定
- 議会同意（R7.2月）
- 校地：上伊那農業高校
- 学級数：6学級
- 開校：令和17年4月以降

再編統合対象校

辰野高校（商業科）・箕輪進修高校（工業科）
上伊那農業高校・駒ヶ根工業高校
伊那支援学校 中の原分教室



上伊那総合技術新校 イメージ図（遠藤克彦建築研究所・waiwai共同企業体 作成）

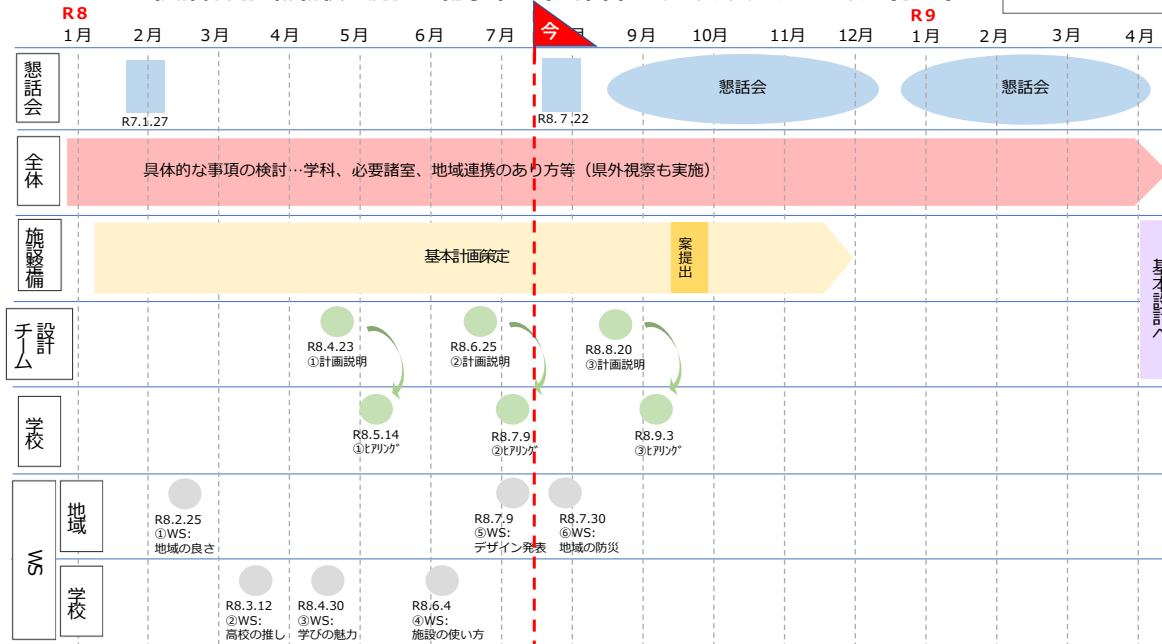
- 施設整備基本計画策定支援業務委託
プロポーザル実施（R7.8月公告）
6学級：農業3学級、工業2学級、商業1学級
- 施設整備事業基本計画策定支援業務委託する
パートナー決定
遠藤克彦建築研究所・waiwai共同企業体
- 基本計画策定に向けてワークショップ等実施

開校までの流れ（参考）



上伊那総合技術新校 施設整備事業基本計画策定までのスケジュール（予定）

令和8年7月22日現在



上伊那総合技術新校の開校までのロードマップ（イメージ図）

令和8年7月22日現在

